



公益社団法人 日本山岳会

## 宮崎支部報

第62号



### 【巻頭言】 日本山岳会会員としての誇りを新たに 宮崎支部支部長 荒武 八起 (No.10735)

平成29年度支部総会において宮崎支部第五代支部長を仰せつかりました。歴代支部長は、初代・魚本定良氏(1985-)、第二代・大谷優氏(1994-)、第三代・井野元繁氏(2004-)、第四代・末永軍朗氏(2009-)です。このようなご歴々の後継が果たせるか甚だ心もとないところです。つきまは皆様の絶大なご支援とご指導を切にお願い申し上げます。新年度からは、支部役員(副支部長・事務局・会計・監事)、支部委員会委員(総務・公報・山行)とも大幅に交代しました。構成メンバーは素晴らしい方々ですので会員の皆様の忌憚のないご意見を賜りながら、支部運営に務めてまいります。

#### 1. 宮崎支部の現況

支部が抱える喫緊の問題は、支部会員数の減少です。賛同者28名で結成された宮崎支部は、最盛期には会員数が100名を超えるまでに成長しましたが、ここ数十年はほぼ直線的に減少を続けています。その要因は、高齢・健康問題などの理由で退会される会員に対して新入会者が少ないことです。高齢化は自然の摂理で避けようがありませんので、健康を維持しながら生涯現役で山歩きを継続できるように施策することが必要と考えます。一方、新入会員の獲得は最大の課題です。登山用品店の賑わいや市中の山岳会・登山同好会の多さなどから推測しますと登山人口総数が減少しているようには見えません。そうであれば、自信を持って日本山岳会入会を勧められる魅力のある支部づくりが最も重要であると思います。

「魅力ある支部づくり」、言葉では簡単ですが具体的な施策となると難題です。

#### 2. 原点に立ち返る

そこで、先ず日本山岳会会員としての誇りを再認識する意味で日本山岳会設立、宮崎支部設立の原点に立ち返ってみたいと思います。

日本山岳会は、ウォルター・ウエストンの勧めで小島鳥水ら7人によって明治38年(1905年)に設立されました。その設立主旨書は、「凡そ山岳が一国の地文及び人文に影響することの大なるは、今俄に説くを要せず・・・」に始まり、高度な欧州のアルプス文化を讃える一方、本邦の実状を説き、さらに、「夫れ高山に登るは、即ち天に近くなり・・・」と述べ、自然・芸術・科学の対象として山の素晴らしさを力強く訴えています。この設立主旨は、各界に反響を及ぼし地理・地質学・博物学・文学・美術家など多彩な顔の集まる会に発展しました。日本山岳会の定款の総則・目的をみますと「本会は、山岳に関する研究並びに知識の普及及び健全な登山指導、奨励をなし、あわせて会員相互の連絡懇親をはかるとともに、登山を通じてあまねく体育、文化及び自然愛護の精神の高揚をはかることを目的とする」とされています。日本山岳会の会員数は、現在約5,000名で山岳団体としては国内最大です。全国に33支部があり、本部および支部間で交流を図りつつ、独自の支部活動を行っているのも他の団体にはない特色とされます。

### 3. 宮崎支部の誕生

宮崎支部は、昭和60年(1985年)に結成され今年で32年目を迎えました。宮崎支部発足以前の県内会員は、先輩支部である熊本支部と東九州支部に所属して活動され、その後、故・今西錦司先生(第12代日本山岳会会長)のお勧めがあり、大谷夫妻を中心とした同志の奔走によって宮崎支部が誕生しました。(詳細は宮崎支部創立20周年記念誌・山嶺、p.21大谷セツ子会員執筆を参照ください)。支部設立の旗印として三大目標が掲げられました。一つは、明治23年(1890年)11月6日に祖母山に登られたウォルター・ウエスタン氏を偲び遺徳を顕彰する「宮崎ウエスタン祭」の開催。次が朝日森林文化賞受賞を記念して発足した諸塚山山開きの開催。三つ目が「みやざき百山」の小冊子刊行でした。この三大目標は、設立当時の魚本支部長から大谷支部長に引き継がれ、山を愛し人を愛する燃えるような氏の情熱は支部を活性化させ、会員数の増加に繋がりました。

### 4. 先達の偉業を継承

宮崎支部設立の3つの旗印の一つであるウエスタン祭の誕生については佐藤光俊氏(高千穂町在住・日本山岳会会員)が「ウエスタン顕彰碑建設と顕彰祭の経緯」と題して詳細に記述されていますので、その内容を抜粋します。

S.37(1962) 五ヶ所の旧家・矢津田家の鷹太郎氏の日記に明治23年(1890)11月6日に「英人シオン・フランドラン君及神戸在留同国人ウエスタン氏同道にて祖母嶽登山往復共立ち寄らる、河内泊りの由也」という記載が発見された。それを機に高千穂町議会がウエスタン顕彰碑建設特別委員会を組織し北稜山岳会の協力のもとに顕彰碑建設のための募金活動が開始された。ウエスタン生家からヨーク石も贈られ約4年後に顕彰碑が完成し、S.41(1966)11.6 ウエスタン顕彰碑除幕式となった。翌S.42(1967)11.6 北稜山岳会が高千穂町後援のもとに第1回顕彰祭を開催したが、この時点では資金不足のため洋鐘は付いていなかった。「顕彰碑に洋鐘を」と募金活動が続けられ5年後に洋鐘のついた名実とも立派な顕彰碑が完成した。これを記念して、S.47(1992)5.2 宮崎県山岳連盟主催で懸鐘式が挙行された。参加者は連盟の各山岳会および全日本山岳連盟の理事、他百数十名と盛大であった。その後も顕彰祭は北稜山岳会を中心に継続されたが、同会の解散により S.51(1976) 通算10回で顕彰祭は終焉した。その後幾度か顕彰祭復活の兆しはあったが実らず、約10年の空白の後、S.60(1985) 日本山岳会宮崎支部発足に伴い、「第1回宮崎ウエスタン祭」が高千穂町との共催で開催された。翌S.61(1986) 宮崎支部主管で「JAC九州山の集い」が会長今西壽雄氏、元会長西堀栄三郎氏の他、多くの方々の出席を得て開催され、併せて第2回宮崎ウエスタン祭が挙行された。そして今年では第33回となる。

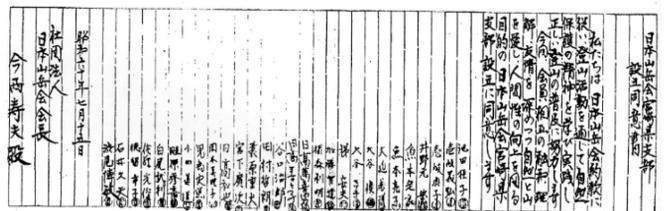
このように、ウエスタン顕彰碑建設には多くの方々の尽力があり、また顕彰する集いは紆余曲折はあったものの多くの先達によって継承されてきました。このことを思い起こして、日本における近代登山の普及に貢献された偉人、そして日本山岳会の生みの親でもあるウエスタン氏を偲び顕彰する「宮崎ウエスタン祭」を大切に受け継いでいかなければなりません。

### 5. 次なる目標

支部の活性化には、宮崎ウエスタン祭、諸塚山山開き、裁判所委託登山、家族登山、森づくりなどの公益事業の継続の他に「みやざき百山」に類する会員共通の次なる大きな目標が必要と考えます。「みやざき百山」の選定と冊子の刊行に際しては、会員の多くが資料集め、現地調査、写真の提供、文章の読み合せなどに携わる中でお互いが刺激し合い啓発されました。このような課題を共有することは、山行はもとより支部活動そのものが楽しく有意義になると推察されます。そのテーマの選定には皆様のお知恵とお力添えが是非とも必要です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 6. 危機感の共有

宮崎支部は「山」を共通の趣味とし、日本山岳会会員であることを誇りとする多士済々の集まりです。そして、その基本理念は会員同士が尊重し信頼し合う紳士的で楽しい支部活動を目指すことです。今一度、日本山岳会の設立主旨に立ち返り心を新たに将来を目指しましょう。そして末永前支部長が会報60号、61号で提言された事を理解し、それを実践することが重要です。会員数が50名を切った今、会員一人ひとりが危機感を持って、我こそが主役という積極性によって伝統ある宮崎支部を盛り上げて頂きます事を心より願っています。



宮崎支部設立同意書と設立当初の会員

## 【7月定例山行】 矢岳 (1131.6m) 7月15日(土)

## 緑滴る霧島のど真ん中から矢岳へ

栗林 淳子 (No. 13836)

7月の山行はナツツバキの時期に合わせた矢岳で、高千穂河原からのピストンで計画された。7時に高岡の河川敷を車4台に分乗し出発。道の駅ゆーぱるのじりでトイレ休憩の後8時40分高千穂河原駐車場着。駐車場で荒武支部長の親戚の松木さんと合流、宮崎からの多田さんのいとこの井上さんを含め18人で装備を整え準備体操の後9時に高千穂河原出発。霧島神社古宮址手前を左に入り、林の中夏ゼミの声を聞きながら緩いアップダウンを進み25分程でミヤマキリシマが広がる鹿ヶ原に出る。花の時期には高千穂峰から見下ろすとピンクの絨毯を敷き詰めたように見えるとの事。左手に中岳の斜面を望みながら再び林の中を進むと前月登った高千穂峰が木立越しに見え隠れして、高千穂峰の裾野を回り込んで行くのが分る。このあたりでは松の木だらうか枯れた木が目立つ。足下の草むらにはツチアケビも見られた。出発して50分ほどして大休止。リーダーの下見のおかげで迷うこと無く10時35分に矢岳登山口に着く。10分ほど休憩し出発。ここからリンナイ登山ルートをたどる。いったん谷底に下り枯れた矢岳川を渡

ると稜線に向かう急登となる。谷筋の数本のヤマボウシの花に癒されながら、途中靴底はがれのハプニングもあったが素早い応急措置で11時50分稜線に出る。稜線に上がった所のナツツバキに一輪可憐な花を見ることができた。去年は今頃沢山咲いていたようだが、今年は花期が遅れてつばみばかりで貴重な一輪に感激。稜線を左に行けば竜王、右の矢岳へ向かう。しばらくは一面ツクシコウモリソウが群生、やがてミカエリソウの群落に変わる。12時15分頂上到着。集合写真を撮って高千穂峰や霧島の山々を見ながら昼食休憩をして、12時55分下山開始。途中雲行きが怪しくなったが幸い雨にはあわず小休止をしながら、お互いともすればつりそうになる足をいたわりつつ、ツムラの68番を分け合い、安全第一でゆっくり16時35分高千穂河原へ下山。高千穂河原970m、矢岳1131.6mと数字だけでは高度差は無いもののアップダウンがあって距離もあり、私の万歩計では2万歩を超えていた。本格的な足つりで心配な場面もあり時間はかかったが全員無事に下山し18時30分高岡の河川敷で解散した。

&lt;&lt;コースタイム &gt;&gt;

7:00高岡河川敷・9:00高千穂河原登山開始・9:25鹿ヶ原・10:35矢岳登山口・11:50稜線・12:15頂上(昼食) 12:55下山開始・16:35高千穂河原着・18:30高岡河川敷着解散

&lt;&lt;参加者 18名 &gt;&gt;

久峯 慧子・清水 弘子・清家 順子・谷口 敏子・多田 登美子・栗林 淳子・樋口 三枝子・前原 満之・荒武 八起・都甲 豊好・乾 正太郎・末永 軍朗・武田 芳雄・四宮 林三・畑島 良一・川越政則・井上さん・松木さん



矢岳山頂



矢岳への登り



ナツツバキ



ヤマボウシ (3)



ツチアケビ



オカトラノオ



チダケサシ

## 【山の日・ときめき家族登山in大浪池】 8月11日(土)

## 和やかに山の恵みを満喫

平成29年8月11日(土)、「山の日」制定後2回目の「山の日」の今日、山の恩恵に感謝する「山の日」の制定を記念しての県民公募の定例山行を開催した。

7:15宮崎産経大駐車場を出発。天気は上々。車中で荒武支部長の挨拶、行程・登山注意事項、ガイドの谷口敏子会員・櫻木会員・畑島会員の宮崎支部の概要、大浪池の伝説の説明などなど興味深く聞きながら行く。高原町に入ったあたりから何やら空模様が怪しくなり、小雨がバスのフロントガラスに落ちてきたが、晴れることを祈願し、ここで「思い出のスカイライン」を皆で大合唱。9:10高千穂河原に到着。ビジターセンターでビデオを鑑賞後、ストレッチ体操をすませ、10:05大浪池登山口に向う。10:30登山口到着。バス降車後の登山口への道路横断が心配されたが、これも比較的スムーズに終え、A.B.Cの3班体制で、10:35登山口スタート。

今日は山の日だけあって、大勢の登山グループがあり、全体的に賑やかな山登りとなったようだ。天気は曇天であったが、予報では12時頃には晴天予報。各班リーダーを先頭に、家族参加の皆さんの間に会員も入って山の話など会話をしながら頂上をめざす。そうこうしているうちに、意外に早く約1時間で、11:30頃大浪池上部到着。班ごとに集合写真を撮影後、昼食をとっているとサプライズ!! 当支部重鎮の石井先生、谷口相談役、多田元山行委員長も登頂され、皆でそのチャレンジ精神に拍手喝采。本当にサプライズだった。なぜか嬉しかったですね。

## 《コースタイム》

産経大P 7:15発—道の駅ゆーばる野尻—高千穂河原P(ビジターセンタ)9:10着、10:05発—大浪池登山口10:30着、10:35発—大浪池上部11:30着(昼食)12:15発—避難小屋13:35着、13:50発—大浪池上部15:00着15:10発—大浪池登山口16:00着、16:30発—産経大P19:00着

## 《参加者45名》

会員(21名) 久峯 慧子 清水弘子 谷口敏子 多田登美子 服部澄子 栗林淳子 橋口三枝子 石井久夫 前原満行 荒武八起 都甲 豈好 日高研二 谷口菊美 武田芳雄 多田周廣 櫻木勉 恒吉克範 服部岩夫 畑島良一 四宮林三 川越政則

家族(24名) 桧室陽子 桧室利輝 桧室朝 原由紀子 原千夏 高橋節代 米満美保 荒武久道 荒武夕子 荒武晴太 荒武智子 下石夏央 松木彰 蔵屋とよ 日高慶子 新田節子 杉本和子 遠矢敦子 前田浩章 前田未来 金丸浩行 金丸莉久 栗巢タツ子 内野初枝

日高 研二 (No.12816)

ここで韓国岳をバックに集合写真を撮り、石井先生に大浪池の自然等の説明をしてもらった後、12:15大浪池火口周囲散策を反時計回りでスタート。大浪池などの眺望の良いポイントが点在し、水面から吹きあがってくる風が火照った体を冷やして気分も爽やかになりとても気持ち良かった。子どもたちも慣れてきたせいかな足取りも軽い様子。約1時間20分で、韓国岳直下の避難小屋に到着。

ここで暫し休憩をとった後、避難小屋を出発。坂道に登り、火口周辺部に行く。途中で参加者の方の靴底が剥がれるハプニングがあったがガムテープで応急処置。約1時間10分かけて、昼食をとった登山口上部に到着。ここで暫し休憩後、下山を開始。

下山路が石道で前日の雨のために滑りやすくなっていたことで、日の当たらない所は一步一步慎重に足を進め、気を使いながら約1時間で何とか下山。バスの中で食べたサプライズ白熊は冷たくデリシャスで火照った体には最高のご馳走であった。

出発が少し遅くなったが無事19:00宮崎産経大駐車場到着。今回の家族登山では、山登りは初めての子もいて、最初みな不安そうな感じを受けたが、下山後の顔を見ると自信に満ちてかなり逞しくなったように感じられた。今回の「山の日家族登山」が今日で終わりではなく、新たな縁、さらなる広がり始まりになればと切に思った。

最後になりますが、今回家族登山に参加されました皆様大変お疲れ様でした!!



昼食



(4)

石井会員による講話  
「霧島・大浪池の自然」

## 参加の皆さんから寄せられたお便り(1)



## 山登り～霧島・大浪池

原 千夏さん(中学3年生)

1 山の日、私は山登りに行きました。初めての登山です。バスで登山口に行く途中、雨が降っていて登れるのか心配でしたが、雨も止み登山日和の良い天気となりました。今回の登山は、標高1,411mにある大浪池を一周するルートです。大浪池は霧島山に属する火山です。日本一高い火山湖で面積も霧島山の中では一番広く、水面の直径が約650mもありほぼ正確な円形です。コバルトブルーの水をほぼ360度の方向から見渡すことができます。一緒に登山をしたのは、日本山岳会宮崎支部の方々と宮崎県内に住んでいる親子です。山岳会の方々の装備の良さに驚きました。登山の途中で困ったことが起きるとリュックからその時に合ったアイテムが出てきます。登山にはいろんなトラブルがつきものです。それをカバーしてくれるアイテムが

リュックに入っていました。そのおかげで、靴底が抜けた人の靴も修理でき無事に下山できました。登山経験の豊富な方々と一緒に登山でき、安心して山を登ることができました。大浪池を一望できる場所に来ると、雲一つない空が池に映っていてすごきれいでした。夏なのに山はとても涼しく空気も澄んでいました。山頂でお昼ご飯を食べ終わると、池を一周しました。急な斜面があったり、雨でぬかるんだ道がありましたが、みんなで気を付けあい無事に下山できました。下山途中、たくさんの種類のきのこが生えていました。とてもかわいくて写真を撮りました。初めての登山で慣れない事もありましたが、美しい景色を見たり、山岳会の方々の登山の知識を知ることができ、良い経験となりました。ぜひ次回も登山に挑戦したいです。



A 班



B 班



C 班



コバギボウシ



ヤマジノホトギス

## 参加の皆さんから寄せられたお便り(2)

2 この度は大変お世話になりました。大浪池に登るのは何十年ぶりだったでしょうか。ワイワイどきどき、落ちる雨粒も歓迎してくれているよう。登り始めたらすっかり青空が顔を出し、これも日頃のご褒美だと感謝せずにはおれません。お昼のおむすびと梅干の美味しかったこと。参加者にはお目にかかった人もいらして、その方にどんどん引き込まれていき、打ち解けていきました。下山の途中一羽の蝶が恒吉さんの肩に羽を休め、かなり長い時を寛いでいました。見ている私もスキップスキップ。バスの中ではお待たせの白熊をぶるぶる震えながらいいただきました。カップは記念にとつてあります。また、送っていただいた写真もきれいに撮れていて笑顔から嬉しさが溢れていました。本当にありがとうございました。次回、天の古道も参加していいでしょうか。(栗巣タツ子さん)



## [日本百名山踏破、3年目の夏]

8/24 夕方、宮崎港出発。8/25 神戸港に着き高速を使い中津川へ。一昨年雨で中止した恵那山から始めた。雨が予想され神坂峠まで行き、そこより先の萬岳荘に泊まる。夕方から夜にかけて月も見えていたが、夜中に雨が降り早朝も雨が降る。8/26 前夜、話をした女性は追分登山口から登っていた。雨でもあるし、今度しようとして下に降りかけたが雨の中、女性が一人。気になり戻り出会うまで登ろうと歩くが山頂まで登る。山頂でゆっくりする人らしく海外の経験もあるベテランだった。駒ヶ根市に移動し[花の里いいじま]車中泊。8/27 4時前に菅の台バスセンターに行くが明るくなるまで待とうとコンビニで仮眠。6時前に行くとき多くの車、奥が開いていた。チケット購入と乗車待ちで1時間半かかり、駒ヶ根ロープウェイで40分待ち、千畳敷駅に9時前着。木曾駒ヶ岳は快晴、日曜でもあることから登山者で賑わっていた。駅に2時前に着くが整理券をもらい4時過ぎに降りる。南アルプス仙流荘バス停Pを下見して[南アルプスむら長谷]泊。8/28 早朝、仙流荘バス停Pへ。6時5分発。7時半北沢峠より仙丈ヶ岳へ



八ヶ岳の赤岳山頂



地藏の頭



(6) 木曾駒ヶ岳中岳より天狗荘、宝剣山荘、宝剣岳、乗越浄土を望む

3 えびの高原は今規制があり思うような登山ができない時に「山の日」にちなんで大浪池登山に参加でき、雨にもうたれず無事一周完歩でき満足でした。山岳会の皆さんの周到なる準備に支えられて、楽しい一日を心より感謝申し上げます。また、機会がありましたら参加させてください。

4 炎天下を想像しましたので、ほどよい雲の下を歩くことができ良かったです。班編成されていたので、纏まっている感じ、仲間と一緒にという感じで安心でした。準備等大変なことだったと思います。楽しい企画をありがとうございました。

5 初めての登山でした。すごく良い経験となりました。私よりも大先輩の皆様たちが、力強く山を登る姿を見てとても良い刺激になりました。私ももっともっと頑張らなければ・・・と元気をいただきました。山に登るための知恵と知識を備えていることが大事なのだと、学ぶことの多い山登りでした。機会があれば次回も参加したいと思います(原 由紀子さん)。

武田 芳雄(No.13587)

向かう。3時 こもれば山荘着。8/29 5時過ぎ出発。駒ヶ峰より先は岩などあり登り難い。甲斐駒ヶ岳より富士山が見える。2時下山。温泉に入り、[花の里いいじま]泊。8/30 駒ヶ根図書館で過ごし、夕方、池山林道終点Pに向かい車中泊。8/31 6時出発。2時半、駒峰ヒュッテ着。空木岳に登るがガスで周囲が見えない。夕方より雨が降って明日は雨の下山かと思ったが快晴だった。9/1 空木岳に登る。360度の展望が見られる。[こぶちざわ]泊。9/2 八ヶ岳の美濃戸口Pを下見し、茅野市に戻り、夕方より美濃戸口P泊。9/3 6時美濃戸まで林道を行き駐車。6時半出発。南沢コースへ。地藏尾根は岩が多く慎重に登る。赤岳頂上山荘の横が北峰、少し下って登ると南峰。頂上山荘に泊まる。9/4 6時半出発。12時P着。茅野市で土産、食事、洗車、高速に乗り辰野SA泊。9/5 一般道で、途中から高速で5時過ぎ神戸港着。9/6 朝宮崎港着。天候に恵まれ、よい山旅ができた。

## 【モンゴル紀行～モンゴルの風に吹かれて】 7月5日～7月11日

## 自然と共生するモンゴルの人々

久峯 慧子 (No. 12563)

モンゴルの国：語モンゴル語(外国語はロシア語が主流)★宗教ラマ教(チベット仏教)★時差日本と1時間

5日 福岡空港発 夜ウランバートル着

6日 四輪駆動車7台に分乗して出発。モンゴル帝国の首都が置かれていたカラコルムへ。真っ青な空、ふうわりと浮かぶ白い雲の草原をひたすら走る。途中草原の中にテーブルを出して昼食。夕方世界遺産のモンゴル最古の寺院のエルデニ・ゾーを見学し、観光施設のゲルに宿泊。夜はキャンプファイヤー。火は神聖なものとしてまずウオッカーを捧げる。ドライバーや現地の人びとも交じり和やかにモンゴルと日本の歌を交互に歌っての交歓会。楽しい夜になった。北斗七星が真上に輝く。

7日 朝焼けが美しい。目的地のツェンケルまで今日も草原の中を走る。沢山の家畜がいるのに糞の匂いが全くしない。透明な風が吸い取ってくれているのだろうか…。午後、フラワーハイキング。数え切れない花々に皆歓声。カメラであちこち撮りまくる。針葉樹の森が見え始めて天然温泉のあるゲルに2連泊。寝る前に薪ストーブを付けに女の子がやって来る。

8日 今日はフラワーハイキング。針葉樹林の中にヤナギランの群生が広がっている。「美しい！」のひと言。沢山の花々に歓声をあげながら登る。山頂に着くと遙か向こうに湖が見え草原が広がっている。遠くにアルタイ山脈が見える。「あの山脈の向こうはロシアですか、中国ですか」と聞くと、「モンゴルは日本の4倍もあります。私たちは今モンゴルの膺のあたりにいます。あの山脈の向こうもモンゴルの大地です」と言われてシュンとなる。午後現地の遊牧民の家族のゲルを訪問。丁度夏休みで遠くの町の学校に通っている子供たちが帰省していて賑やか。馬に乗せてもらう。ほっぺの赤い10歳位の子どもが手綱を持ってくれる。途中何度も心配そうに私を見上げる。嬉しくて可愛くてその度に笑顔を返した。遊牧民の子供たちは2歳位から馬に乗ると言う。



ゲルでの生活は思ったより快適

9日 途中岩山が点在する草原を通過して今夜の宿泊地ラシャントのゲルに向かう。午後キャンプ地近くにある岩山までトレッキング。夕方宿泊地近くに広がるゴビ砂漠の入り口に向かう。夕日に浮かび上がる風紋が美しい。足を踏み入れると砂に足を取られる。砂が指の間からこぼれ落ちる。丘まで登る。近くの子供たちが砂スキーをしていた。

10日 ウランバートルへ。スフパートル広場に立つ巨大なチンギス・ハーンの像を見る。国立ドラマ劇場で民族芸能を観る。馬頭琴の調べに乗っての喉歌を聴く。夜ウランバートルを発つ。

11日

早朝ソウル着。9時30分福岡空港に到着。

## 草原に咲いていた花々

ヤナギラン、ベロニカ、シオガマ、リンドウ、ワレモコウ、マツムシソウ、ツメレンゲ、ヒルガオ、アザミ、ノコギリソウ、フウロウ、キンポウゲ、アリウム、トラノオ、その他……

★参加者11名(久峯 慧子・谷口 敏子・他宮崎 6名、他県 3名、ガイド 1名)



無数の動物を背景に



ドライブ途中、草原での昼食

山羊・羊・牛・馬・ヤクが群れなして同じ草食み草原に生く  
たびたびに我を見上げてうなづける手綱引く子の頬っぺが赤し  
浮かぶ雲に「ノンちゃん雲に乗る」を思い出し心ふうわり空に吸はるる

## 支部行事予定

## [事務局だより]

	行事名	期日	備考
10月	第33回全国支部懇談会、他	10.13-15	茨城支部主管
	定例山行 女鈴山・男鈴山	10.15	日南市
11月	第33回宮崎ウエスタン祭	11.3	高千穂町
	記念登山 祖母山	11.4	
12月	定例山行双石山	12.9	清掃登山
	支部年次晩餐会	12.9	

## 宮崎支部会務報告(7月～9月)

月日	事業・行事	開催場所	参加人員	備考
7.2	森づくり・育林作業	宮崎市田野町	10	田野の森
7.6	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	6	
7.6	第220回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	ミニ講話 熱中症について
7.15	7月定例山行	高原町 矢岳	18	会員15、他3
7.27	支部役員・委員長等会議	宮崎市民活動センター	10	山の日ときめき家族登山打ち合わせ(2)
8.3	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	
8.3	第221回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	26	ミニ講話 家族登山のための応急手当 畑島会員
8.9	支部役員・委員長等会議	宮崎市民活動センター	10	山の日ときめき家族登山打ち合わせ(3)
8.11	8月定例山行 「山の日ときめき家族登山」	霧島町 大浪池	45	会員21、一般参加24(うち子供7)
9.4	支部役員・委員長等会議	総務委員長宅	10	宮崎ウエスタン祭打ち合わせ(1)
9.7	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	
9.7	第221回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	26	ミニ講話 山岳遭難事故防止について 畑島会員
9.14	宮崎ウエスタン祭事前協議	高千穂町役場企画観光課	4	企画観光課・田原小校長、村おこし協議会会長と協議
9.16	9月定例山行	日の影町 天の古道		台風18号接近で中止
9.29	支部役員・委員長等会議	宮崎市民活動センター	7	宮崎ウエスタン祭打ち合わせ(2)

## グループ・個人山行(届け出分)

月日	山座	場所等	参加人員(代表)	日数	備考
8.24～9.6	恵那山、5座	南アルプス	1 (武田芳雄)	13	木曾駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、空木岳、赤岳
9.3	市房山	西米良村	8 (橋口三枝子)	1	
8.26-27	堂岩山	上信越国境	4 (畑島良一)	2	
9.22～9.26	悪沢山、明石岳	南アルプス	7 (橋口三枝子)	5	
9.24	祖母山	高千穂町	4 (武田芳雄)	1	

## 事務局からのお知らせ

## 1.グループ・個人登山の事前届けについて

登山される時は、登山計画内容を事前に電話、FAX、メール等で事務局宛に届けて下さい。

## 2.平成29年度年次晩餐会について

日時:平成29年12月2日(土) 会場:新宿京王プラザホテル 会費:15,000円

\*参加ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

## 編集後記

新役員体制になっての前期の大事な行事「山の日ときめき家族登山」も無事終了致しました。「次回も是非参加したい」と言う参加者からの声の大きな励みになりました。

後期は「第33回 宮崎ウエスタン祭」の行事が控えています。会員全員で一つ一つの行事を確実に実行し、充実したものにしていけるように努めていきたいと思っております。

うまおい  
馬追虫の鬣のそよりに来る秋はまなこを用だて想ひみるべし  
長塚節

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第62号

発行責任者: 荒武 八起

編集責任者: 谷口 敏子

事務局: 都甲 豊好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail [toko150@mivazaki-catv.ne.jp](mailto:toko150@mivazaki-catv.ne.jp)

郵便口座 記号17330 番号9336371

銀行口座 宮崎銀行県庁支店普通 28668

日本山岳会宮崎支部